

教科 【 国語 】

■生徒の状況

本校生徒の現状として、漢字や語彙などの国語学習の基盤となる基礎的な知識・技能の定着に個人差が見られ、語彙力の不足が文章の正確な理解や表現の障壁となっている。また、本文中の事実や根拠と自分の考えを論理的につなぎ合わせて捉えることや、それらを筋道立てて文章にまとめたり説明したりすることに苦手意識をもつ生徒が多い。

■指導における課題

指導上の課題として、まずは帯活動等を通じた基礎的な漢字・語彙力の確実な定着を図る必要がある。その上で、ICTやユニバーサルデザイン(UD)化の手法を活用して長文に対する苦手意識を軽減し、生徒が粘り強く読み進められる環境を整えるとともに、本文から根拠を捉えて論理的に考え、自分の意見を構築させる指導の充実が求められる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び板橋区授業スタンダードSの取組	・毎時間の冒頭で「本時のめあて（何ができるようになるか）」を生徒と共有し、帯活動等で漢字・語彙などの基礎的・基本的事項を定着させる。 ・単元末および毎時間の終わりに、「何が理解でき、どこが次回の課題か」「どのような学習方法が有効だったか」を100字程度で自己記述させ、自己調整力・自己評価能力を高める。 ・現代文の読解や古典学習において、小单元ごとに生徒が「自分で読む」「友達と協働して読み解く」「タブレットの解説動画やヒントカードを活用して深く学ぶ」といった学習方法・ペース・学習順序を自己選択する場面を意図的に設定する。 ・あらかじめ単元のゴールや記述の評価基準を提示し、生徒が自身の達成度を確認しながら主体的に学習を調整できるようにする。
視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	・一人一台端末を効果的に活用し、「個人—グループ—個人」のプロセスを通じた段階的な記述指導を展開する。 - まず【個人】の活動において、生徒は端末上で自身の考え（根拠と意見）を整理し、200字程度の文章としてまとめる。次に【グループ】の活動では、画面上でメンバーの意見を一元化・比較参照することで、「自分とは異なる根拠の捉え方」や「論理的な構成」に気付き合い、相互にアドバイスや助言を交換させる。最後に再び【個人】の活動へ戻り、他者の視点やフィードバックを取り入れながら自身の200字記述を推敲・リライトさせることで、より論理的かつ発展的な文章表現へと高めていく。 ・粘り強い長文読解が苦手な生徒に対し、端末でのデジタル教科書・音声読み上げ・語彙注釈機能等を活用し、読解のハードルを下げる支援を行う。 ・読解が早い生徒には、発展的な比較読解（類似テーマの他文章の精読）や、AI等を活用した校正課題を提供するなど、個の能力を伸ばす環境を維持・活用する。 ・一人一台端末を活用し、説明文の段落構成整理や、物語文における登場人物の「心情変化のきっかけ（原因）と結果」をワークシート上でカード化・視覚化させる。
視点3 総合的な学習の時間との連携	・総合的な学習の時間で取り組むテーマ（SDGs・環境・キャリア・郷土愛等）における「課題設定→情報収集→整理分析→探究・実行→まとめ発表」という学習過程を、国語科の「情報の扱い方」「意見文・レポート作成」「スピーチ・発表」の単元と連動させる。 ・総合のまとめ・発表資料作成に向けて、国語科の授業で「説得力のある根拠の挙げ方」「事実と意見の区別」「引用の正しい方法」「200～400字での論理的なまとめ方」を先行指導する。